

日本応用心理学会第67回大会第1日に、運営委員会および総会が開かれた。常任運営委員会提出の原案は運営委員会において原案通り承認された。また、引き続き行われた総会では、運営委員会承認事項がすべて承認された。

#### 日本応用心理学会2000年度運営委員会

日 時：2000年9月9日（土）11:45～12:45

場 所：神戸親和女子大学1号館第1会議室

1. 開会（荻野事務局長）
2. 会長挨拶（坂野登神戸親和女子大学教授）
3. 議長選出 坂野会長を選任。

#### 4. 報告事項

##### 1) 事業報告

- (1) 会員の異動および会費納入状況について  
（荻野事務局長）

9月1日現在の会員数 正会員1042、名誉会員30、学正会員2、賛助会員4。

##### (2) 委員会報告

###### i 機関誌編集委員会（高橋委員長）

「応用心理学研究」を巻-号形式にすること、「投稿および執筆規定」の改正を検討し、「編集規定」と「執筆規定」とに分け、内容を改めた。

###### ii 認定「応用心理士」認定審査委員会

（岡村委員長）

1999年12月に申請の手引き第3版を出し、申請手続きを簡単にした。これまでに165名まで認定証を発行した。2000年4月以降は13名合格、2名不合格となっている。

###### iii 学会賞・奨励賞選考委員会（正田委員長）

2000年度の学会賞・奨励賞受賞者は、委員会による第1次選考と常任運営委員会による第2次選考の結果、以下の通りとなった。

学会賞：内藤哲雄氏 蓮花一己氏

奨励賞：山本寛氏

###### iv 学会史編集委員会（村井委員長）

補遺を出版する予定であるが、現在のところ資料が不足している。

###### v 国際交流委員会（長塚委員長）

以下のことを検討している。① 国際応用心理学会への個人会員登録と参加を促進する。② 国際応用心理学会・国際交通心理学会で交通心理学シンポジウムを行う。③ 2002年7月7～12日にシンガポールで国際応用心理学会が開催される。日本の心理学を紹介して欲しいという要望があり、シンポジウムを設けることを検討している。

###### vi シンポジウム委員会（藤田委員）

2000年1月29日に、「今、子どもたちの問題にいかにかかわるか」というテーマで公開シンポジウムを開催した。

###### vii 広報委員会（林委員長）

ニュースレター1号、2号を発行した。応用心理学会のホームページの運用を9月5日から始める予定である。

###### viii 研修委員会（大久保委員長）

応用心理学会の研修は何をなすべきか、テーマ、方法、対象、時期などについて全会員を対象にアンケートを実施する予定である。

##### 2) 1999年度（第66回）大会報告

（田中昌人前大会委員長）

大会決算報告の説明が行われた。

##### 3) 日本心理学諸学会間連絡会について

（林委員）

2000年6月で機能を停止し、連合へ機能を委譲付託した。

##### 4) 日本心理学諸学会連合について（事務局長）

連合の発足と第1回理事会における検討事項について報告。

#### 5. 審議事項

##### 1) 新運営委員・新監査委員について

現運営委員および会計監査の改選期にあたり常任運営委員会から委員補充のための候補者の推薦があり、次の通り決定した。

運営委員として、会計監査二期を経た玉井寛氏を含む次の7名が承認された。

坂野 登（神戸親和女子大学）

田中真介（京都大学）

玉井 寛（日精研リサーチ）

外島 裕 (日本大学)

松田浩平 (文京女子大学)

南 隆男 (慶応義塾大学)

吉田 悟 (駒澤女子大学)

会計監査として、新たに藤森立男氏 (横浜国立大学) が承認された。

2) 会則改定について

事務局長より、役員名称の変更 (運営委員→理事) とその任期の変更 (2年→3年)、目的の文言の変更、事業内容の補充 (資格認定)、会則改定に関する条項の設定を主とする改訂を行うことについて説明がなされ、原案通り承認された。

3) 1999年度決算について

決算書通り承認された。

4) 2000年度予算について

予算案の説明が行われ、原案通り承認された。

5) 名誉会員推薦について

常任運営委員会提案の、次の4氏を総会に推薦することが承認された。

内海 滉氏 (千葉大学)

大久保康彦氏 (國學院大学栃木短大)

田中富士夫氏 (中京大学)

花沢 成一氏 (聖徳大学) 五十音順

6) 2002年度 (第69回) 大会開催校について

富士短期大学に決定。

大会委員長 岡村一成富士短期大学教授。

7) セビリア宣言支持表明について

会員3氏からの提案に基づき、常任運営委員会で検討し承認された経緯について事務局長より説明が行われ、支持表明をすることが承認された。

6. 閉会の辞 (事務局長)

日本応用心理学会 2000年度総会

日 時：2000年9月9日 (土) 12:45～13:45

場 所：神戸親和女子大学4号館421教室

1. 開会 (荻野事務局長)

2. 会長挨拶 (坂野登神戸親和女子大学教授)

3. 議長選出 坂野会長を選任。

4. 報告事項

1) 事業報告

- (1) 会員の異動および会費納入状況について (事務局長)

(2) 委員会報告

i 機関誌編集委員会 (高橋委員長)

ii 認定「応用心理士」認定審査委員会 (岡村委員長)

iii 学会賞・奨励賞選考委員会 (正田委員長)

iv 学会史編集委員会 (村井委員長)

v 国際交流委員会 (長塚委員長)

vi シンポジウム委員会 (藤田委員)

vii 広報委員会 (林委員長)

viii 研修委員会 (大久保委員長)

2) 1999年度 (第66回) 大会報告

(田中昌人前大会委員長)

大会決算報告の説明が行われた。

3) 日本心理学諸学会間連絡会について

(林委員)

4) 日本心理学諸学会連合について (事務局長)

5. 審議事項

1) 新運営委員・新監査委員について

新運営委員として7名、新会計監査として1名を承認。

運営委員 坂野 登 田中真介 玉井 寛

外島 裕 松田浩平 南 隆男

吉田 悟 (五十音順)

会計監査 藤森立男

2) 会則改定について 原案通り承認。

3) 2000年度決算について 決算書通り承認。

4) 2000年度予算について 予算案通り承認。

5) 名誉会員推薦について

内海 滉, 大久保康彦, 田中富士夫, 花沢成一の4氏を名誉会員として承認。

6) 2002年度 (第69回) 大会開催校について

富士短期大学に決定。

大会委員長 岡村一成富士短期大学教授。

7) セビリア宣言支持表明について

支持表明をすることが承認された。

6. 学会賞・奨励賞授与

坂野会長より、内藤哲雄氏、蓮花一己氏に学会賞、山本寛氏に奨励賞が授与された。

7. 2001年度 (第68回) 大会開催校挨拶

(岩手県立大学 細江達郎教授)

8. 2002年度 (第69回) 大会開催校挨拶

(富士短期大学 岡村一成教授)

9. 閉会の辞（事務局長）
- ・「応用心理学研究」編集規定 本誌表紙裏に掲載
  - ・「応用心理学研究」執筆規定 本誌最終ページに掲載
  - ・日本応用心理学会会則（改訂）別掲
- ・第66回大会決算報告 別掲
  - ・1999年度決算 別掲
  - ・2000年度予算 別掲

### 日本応用心理学会会則

第1条（名称） 本会は日本応用心理学会（The Japan Association of Applied Psychology）と称する。

第2条（目的） 本会は応用心理学の研究の発展を促進し、隣接諸科学との交流を図り、もってわが国の文化と福祉の向上発展に貢献することを目的とする。

第3条（事業） 本会は前条の目的を達成するために下記の事業を行う。

- (1) 応用心理学の研究に関する諸業務との連絡、新分野の開拓、会員の親和増進
- (2) 機関誌、その他の刊行物の編集および刊行
- (3) 大会その他の必要な会合の開催
- (4) 本学会認定「応用心理士」の資格認定
- (5) 外部からの要請による斯学研究および応用業務の受託あるいは幹旋
- (6) その他必要な事業

第4条（会員） 本会の会員は、正会員、名誉会員、賛助会員、および学生会員とする。

本会に入会しようとする者は、正会員の推薦により所定の手続きを経て、常任理事会の承認を得ることとする。

2 正会員の入会資格は、次の通りとする。

- (1) 四年制以上の大学で心理学およびその隣接分野を専攻した者
- (2) 第1号に準じる者

正会員の会費は年額6,000円とする。

3 名誉会員は本会の正会員又は正会員であった者で、本会のために著しい功績があった者であって、理事会の議を経た上で、総会の承認を得た者とする。なお、名誉会員は会費を納める義務を有しない。

4 賛助会員は本会の事業に賛同し、理事会の承認を経て、所定の会費をもって本会の事業に財政的援助をする者とする。

賛助会員の会費は、年額1万円以上とする。

5 学生会員は、四年制以上の大学で、心理学およびその隣接分野を専攻している4年次以上の学部在籍中の学生とする。

学生会員である者が、正会員として入会を希望する場合は改めて入会の申請を必要とする。

学生会員は、正会員の連名者として本学会大会の発表者となることができる。

学生会員は、正会員と同様に機関誌、ニュースレター等の配布、会務連絡を受けることができるが、応用心理学研究掲載諸報告の連名者となることはできない。

また本会の業務に関する選挙権、被選挙権を有しない。

学生会員の会費は正会員の2分の1とする。

第5条（役員） 本会に次の役員を置く。理事長1名、副理事長1名、理事若干名、事務局幹事若干名、監事2名。

第6条（理事長・副理事長・事務局長） 理事長は大会当番機関の代表者、副理事長は次期大会当番機関の代表者がこれにあたる。この場合理事長および副理事長の任期は前期大会終了の翌日から大会終了の日までとする。また大会当番機関の決定は当該大会に先行する総会の決議による。

2 理事長は、第8条1項の選出規定にかかわらず、交代の翌年次は常任理事に就任する。

3 事務局長は理事長の指名による。

4 理事長、副理事長および事務局長は第8条の規定に関わらず、その在任中は常任理事とする。

第7条（理事長・副理事長の職務） 理事長は会長となり本会の業務を総理し、本会を代表する。副理事長は副会長となり理事長を補佐し、理事長に事故あるときはこれに代わる。

第8条（理事および監事） 理事及び監事は総会において選出し、任期は3か年とする。ただし再任を妨げない。理事は理事長及び副理事長と共に理事会を構成し、本会の運営にあたる。

2 理事は互選により、常任理事若干名を選出する。常任理事は理事長および副理事長と共に常任理事会を構成し、理事会の委託を受けて本会の運営を常時担当する。

理事会は理事長が召集する。

3 監事は本会の会計監査の業務にあたる。

第9条（事務局幹事） 本会事務の必要に応じ、事務局に事務局幹事を置く。事務局幹事は会員の中から理事長が委嘱する。

第10条（委員会） 本会の目的達成のために必要あるときは、委員会を設けることができる。委員会に関する規則は別に定める

第11条（総会） 総会は年1回開催の本会大会の時に開く。ただし理事長において必要があると認めるときは臨時総会を開くことができる。

第12条（退会および除名） 会員が退会を希望する場合には、退会届けを提出しなければならない。

2 会員が不都合な行為をした場合は、理事会の議決によってこれを除名することができる。

所定の会費を一定期間以上納入しない会員については、常任理事会の議を経て、退会させることができる。

第13条（事務局） 本会事務局を当分の間、東京都小平市小川町1-830 白梅学園短期大学心理学科研究室（電話 042-346-5622, FAX 042-349-7373）に置く。

事務局には、事務局長1名、事務局幹事若干名および局員若干名を置く。

事務局長は会の事務を統括する。

第14条（会則改正） この会則の改正は、総会に出席した正会員の3分の2以上の同意を必要とする。

付則 本会則は平成12年9月9日より実施する。

## 日本応用心理学会第66回大会決算報告書

2000. 4. 19  
於：東京国際大学

収 入			支 出		
摘 要		金 額	摘 要		金 額
大会参加費		1,323,000	印刷費		1,019,855
(内訳) 正会員予約分	5,000×182	910,000	(内訳) 論文集		
正会員当日分	5,500×46	253,000	プログラム		
臨時会員	5,500×6	33,000	ポスター		
院生会員(予約分)	2,000×31	62,000	封筒, 第1号通信, 振込用紙		
学生会員(予約分)	1,000×2	2,000	コピー代(コピーカード含む)		
院生会員(当日分)	2,000×12	24,000	参加はがき, 原稿用紙, その他		
学生会員(当日分)	1,000×1	1,000	通信費		399,005
記念講演代	500×76	38,000	(内訳) 論文集郵送		
発表費	5,000×181	905,000	プログラム郵送		
論文集代金		477,500	第1号通信郵送		
(内訳) 予約分	5,000×68	340,000	その他		
当日分以降	5,500×25	137,500	宿泊費		30,492
懇親会代金		293,500	交通費		70,000
(内訳) 正会員(予約分)	5,000×42	210,000	アルバイト代		943,100
院生・学生会員(予約分)	2,500×9	22,500	文具・消耗品・会場備品		231,042
正会員・臨時会員(当日分)	5,500×10	55,000	懇親会費		337,103
院生・学生会員(当日分)	3,000×2	6,000	記念品		64,000
小江戸巡り代金		42,000	テレホンカード		
(内訳) 予約分	1,000×30	30,000	謝礼		380,895
当日分	1,000×12	12,000	シンポジスト・講師・その他		
広告・機器展示費		215,000	大会運営費		361,423
(内訳)	55,000×1	55,000	準備委員会会合費		33,118
	40,000×1	40,000	加入金返金		44,500
	30,000×1	30,000			
	20,000×2	40,000			
	10,000×5	50,000			
学会本部より補助金		600,000	繰り越し		1,437
寄付金 高嶋正士先生, 文成印刷	30,000×2	60,000			
雑収入		0			
合 計		3,916,000	合 計		3,916,000

監査の結果、上記の収支が適正であることを認めます。

2000年4月26日

東京国際大学人間社会学部教授 志津野 知 文 ㊞

以上の通り、ご報告いたします。

2000年4月26日

日本応用心理学会第66回大会準備委員長 稲 毛 教 子 ㊞

## 日本応用心理学会1999年度決算

収 入			支 出		
項 目	実 行 額	予 算 額	項 目	実 行 額	予 算 額
会費	5,826,000	5,520,000	第66回大会補助費	600,000	600,000
過年度分 57×6000	342,000	240,000	学会賞・奨励賞	60,000	60,000
本年度分	5,484,000	5,280,000	心理学諸学会連合	30,000	30,000
912×6000+4×3000			諸学会間連絡会関係	10,000	10,000
賛助会費	60,000	50,000	シンポジウム・講演費	299,000	300,000
			「応用心理士」関係経費	593,527	870,000
「応用心理士」関係	600,000	1,220,000	委員会活動費	144,251	900,000
審査料 (18名)	180,000	320,000	学会史編集委員会	0	50,000
認定料 (14名)	420,000	900,000	機関誌編集委員会	26,520	300,000
雑収入	113,686	250,000	学会賞・奨励賞選考委員会	3,100	50,000
			シンポジウム委員会	0	100,000
			国際交流委員会	65,540	200,000
			広報委員会	0	100,000
			研修委員会	49,091	100,000
			印刷費	776,107	3,200,000
			機関誌	655,200	2,800,000
			広報関係	69,300	150,000
			その他	51,607	250,000
			通信費	340,060	800,000
			機関誌郵送費	66,305	300,000
			広報関係郵送費	143,815	200,000
			その他	129,940	300,000
			交通費	571,540	600,000
			アルバイト費	1,369,150	1,250,000
			事務局費	597,725	600,000
			予備費	0	515,965
小 計	6,599,686	7,040,000	小 計	5,391,360	9,735,965
前年度繰越金総額	3,595,965	3,959,655	次年度繰越金総額	4,804,291	900,000
名簿作成積立金	200,000	200,000	名簿作成積立金	600,000	600,000
特別企画積立金	0	0	特別企画積立金	300,000	300,000
前年度純繰越金	3,395,965	3,395,965	次年度純繰越金	3,904,291	0
合 計	1,0195,651	10,635,965	合 計	10,195,651	10,635,965

以上の通り相違ありません。

2000年7月12日

監査委員 玉 井 寛 ㊞

監査委員 山 本 寛 ㊞

## 日本応用心理学会2000年度予算

収 入			支 出		
項 目	予 算 額	99年度決算額	項 目	予 算 額	99年度決算額
会費	5,520,000	5,826,000	第67回大会補助費	700,000	600,000
過年度分 ( 30名)	180,000	342,000	学会賞・奨励賞	60,000	60,000
本年度分 (890名)	5,340,000	5,484,000	心理学諸学会連合	30,000	30,000
賛助会費	60,000	60,000	諸学会間連絡会関係	0	10,000
「応用心理士」関係	1,020,000	600,000	シンポジウム・講演費	400,000	299,000
審査料 (27名)	270,000	180,000	「応用心理士」関係経費	500,000	593,527
認定料 (25名)	750,000	420,000	委員会活動費	1,100,000	144,251
雑収入	330,000	113,686	学会史編集委員会	50,000	0
			機関誌編集委員会	300,000	26,520
			学会賞・奨励賞選考委員会	50,000	3,100
			シンポジウム委員会	100,000	0
			国際交流委員会	200,000	65,540
			広報委員会	200,000	0
			研修委員会	200,000	49,091
			印刷費	3,200,000	776,107
			機関誌	2,800,000	655,200
			広報関係	200,000	69,300
			その他	200,000	51,607
			通信費	600,000	340,060
			機関誌郵送費	250,000	66,305
			広報関係郵送費	200,000	143,815
			その他	150,000	129,940
			常任運営委員交通費	900,000	571,540
			アルバイト費	1,300,000	1,369,150
			事務局費	700,000	597,725
			予備費	544,291	0
小 計	6,930,000	6,599,686	小 計	10,034,291	5,391,360
前年度繰越金総額	4,804,291	3,595,965	次年度繰越金総額	1,700,000	4,804,291
名簿作成積立金	600,000	200,000	名簿作成積立金	1,000,000	600,000
特別企画積立金	300,000	0	特別企画積立金	700,000	300,000
前年度純繰越金	3,904,291	3,395,965	次年度純繰越金	0	3,904,291
合 計	11,734,291	1,0195,651	合 計	11,734,291	10,195,651

日本応用心理学会  
常任運営委員会 / 常任理事会議事録

2000年度 第1回 常任運営委員会

日 時：2000年5月19日（金）18:00～20:00

場 所：富士短期大学 記念図書館3階第三会議室

出席者：細江・稲毛・浮谷・内海・大塚・荻野・  
岡村・小野・神作・高橋・長塚・中村・  
平野・福原・村井・藤田  
事務局（神田・岩田・藤瀬）

報告事項

1. 1999年度(第66回)大会報告（稲毛大会委員長）  
第66回大会の決算報告が行われた。
2. 2000年度(第67回)大会について  
（荻野事務局長）

現在までの参加申し込み者数、発表申し込み件数について坂野会長からの報告が伝達された。

3. 心研連よりの科研費審査委員の推薦について  
（事務局長）

心研連から応用心理学会に科研費審査委員候補6名の推薦依頼があった。締め切り日の都合で常任運営委員会に諮ることができなかつたので、各委員会委員長に推薦を求め、会長、副会長および事務局長で話し合い6名を推薦した。

4. 委員会報告

- 1) 認定「応用心理士」認定審査委員会報告  
（岡村委員長）

2000年度前期申請は5月31日まで受け付けている。現在までの申請者は9名。

6月15日に認定委員会を開催の予定。

- 2) 機関誌編集委員会報告（高橋委員長）

4月22日と5月19日の両日会議をもった。26号を6月末に発行の予定。総説2編、原著1編となる。27号は9月あるいは10月に発行したい。ただし次号からは年間2冊とする。そのため27巻1号、2号の形式にすること、およびこれを機会に表紙のデザインを変えることを理事会に提案する。

- 3) 研修委員会報告（事務局長）

4月20日に会議をもった。研修の方法の具体案を継続して検討する。研修の在り方を考える

ためのシンポジウム開催は見送ることにした。代わって、会員の研修への希望を問うアンケートを行いたい。アンケートの作成は大久保委員長と吉田委員を中心に行う。

5. 事務局より（事務局長）

- ・次回、常任運営委員会において名誉会員の推薦を行う予定である。
- ・本年度の大会をもって現運営委員の任期が終了するため、次期運営委員の推薦をお願いしたい。
- ・学術情報センターのサイトに応用心理学会のホームページを開設できることになったので協力を願いたい。（これに対し、予算を設けてホームページの作成および維持を依頼することが好ましいとの意見が出された。）
- ・学術著作権協会から送付された資料について報告。
- ・本会の3名の会員から応用心理学会としてセブリア宣言に対する支持表明をして欲しいとの申し入れが坂野会長にあった。これを本日の審議事項とする。

審議事項

1. 会則改訂について

前回の常任運営委員会で「運営委員」を「理事」に、「常任運営委員」を「常任理事」とすることを運営委員会および総会に提案することが決定された。そのため、岡村委員、林委員および事務局長が常任運営委員会の諮問を受け、会則改訂案を答申。これについて審議を行った。その結果、以下の問題点が指摘され、修正、および再提案がなされた。

① 運営委員を理事にした場合、理事が50名を越えることになる。これは多すぎるのではないか。これに対し、とりあえず名称だけを変更するという再提案がなされた。監事の役割が抜けている。これに対し、第8条に関係の文面を入れる、また、理事、監事の任期を他の役員との任期と同様3年にするということが提案された。監事と幹事の発音が同じなので幹事を別の名称にしたらどうか。これについては改めて検討することになった。事務局の所在地は別に定められた方がよいのではないか。これには、本則に載せるのが一般的であるという意見がだされた。

② 他に、第2条の“これに基づく学術技芸の応

用発達”を“応用心理学の発展”に，“文化の向上”を“文化と福祉の向上”に変える，第3条の“研究およびその応用”を“応用心理学の研究”に変える，という意見が述べられた。

以上の点を踏まえて，次回再度改訂修正案が提出されることとなった。

## 2. 「応用心理学研究」投稿および執筆規定の改定等について。

機関誌編集委員会より，これまでの「応用心理学研究」投稿および執筆規定を，編集規定と執筆規定に分けることが提案され，具体案が提出された。二つの規定に分けることについては異議がなく，細部について若干の意見が述べられ，編集委員会で検討し，次回再提案されることとなった。

## 3. 1999年度決算について

事務局長より，1999年度決算の説明があり，承認された。

## 4. 2000年度予算について

事務局長から予算案の説明が行われた。同時に，これまで支給されていなかったり，不明確であった以下の①～④の事項について提案がなされ，承認された。また岡村委員から大会補助費の増額について提案があり，10万円増額し70万円とすることが承認された。

予算案については継続審議となった。

① 各委員会の会議に当たり，これまで交通費の支給がなかったが，1回の出席に対し，2,000円を支給する。

② 公開シンポジウムの講師謝礼は，会員5,000円，非会員は30,000～50,000円とする。

③ 講演会講師の場合は，会員は10,000円，非会員は30,000～50,000円とする。

④ 応用心理学研究投稿論文の査読にたいする謝礼は，非会員に依頼した場合のみ3000円分の図書券とする。

## 5. 2002年度大会開催校について

富士短期大学（東京都）に依頼することが承認された。

## 6. 新入会員審査

37名の入会が承認され，1名が保留となった。

## 7. セビリア宣言の支持表明について

事務局長より，会員の中川作一，伊藤武彦，杉田明宏の三氏の連名で常任運営委員会宛に「暴

力についてのセビリア声明」の支持を学会として正式に表明してほしいとの提案があったことが説明され，資料が配布された。これをもとに次回さらに審議することとなった。

## 2000年度 第2回 常任運営委員会

日 時：1999年6月24日（土）16:00～18:00

場 所：駒沢大学本部棟5-5

出席者：坂野・細江・大久保・荻野・小野・垣本・越河・林・馬場・平野・正田・高橋・藤田・中村  
事務局（岩田・藤瀬）

## 報告事項

1. 2000年度(第67回)大会について（坂野会長）  
申込状況，準備状況について報告。
2. 委員会報告
  - 1) 機関誌編集委員会（高橋委員長）  
7月22日（火）に26号が出来上がる予定。
  - 2) 認定「応用心理士」認定審査委員会（馬場委員）  
6月15日に委員会を開催。審査の結果13名合格，2名不合格とした。
3. 事務局より（荻野事務局長）  
名誉会員の斉藤幸一郎先生のご逝去に際し，学会として弔電とお花をお贈りした。

## 審議事項

1. 学会賞・奨励賞について  
正田委員長より，学会賞・奨励賞選考委員会の第一次選考の結果が報告され，引き続き第二次選考が行われ以下の通り決定した。  
学会賞は，内藤哲雄氏（信州大学），蓮花一己氏（帝塚山大学）の2名，奨励賞は山本寛氏（千葉商科大学）とする。
2. 学術著作権協会からの依頼の件  
事務局長より，「複写に関わる総合的権利委託契約」に「譲渡権」に関する内容が追加されることに伴う覚え書きの締結の依頼が来たが問題はないと思われるので締結する旨の提案がなされ，了承された。
3. 2000年度予算案について  
事務局長より予算案の説明がなされ，提案通り承認された。また，予算の委員会活動費の使途に

ついて以下のことが確認された。

- ① 各委員会は委員会活動費から、1回の会合につき、「お車代」として、出席した委員に2000円を支給する。
  - ② 遠方の委員が会合に出席した場合は、別途に、幹線部分の交通費を常任運営委員交通費より支給する。委員が常任運営委員ではない場合も同様とする。支払いは委員長からの報告を受けて事務局が行う。
  - ③ 機関誌編集委員会は、非学会員に審査を依頼した場合に限り、1件の審査につき3000円の図書券(カード)を謝礼として送る。その費用は委員会活動費から支出する。
  - ④ 広報委員会は、ホームページの作成と維持に関わる費用を委員会活動費より支出する。
  - ⑤ 全会員を対象とする印刷物の印刷費と郵送費、その他大口の印刷費あるいは郵送費は、本部の印刷費あるいは通信費を当てる。
4. 「応用心理学研究」編集及び執筆規定の改定について
- 前回の審議を受け、高橋委員長より、編集規定および執筆規定に関する機関誌編集委員会の修正案が示された。両規定ともさらに部分的修正意見が出され、編集委員会に一任することになった。
5. 会則改訂について
- 前回の審議で問題とされた点を取り入れて修正した案が提出され、承認された。しかし、新たに、従来の会則には会則改訂に関する条項が欠けていることが指摘され、これを加えることが提案され、次回に更に修正案を提出、審議することとなった。
6. セベリア宣言の支持表明について
- 概ね支持の方向で意見が出されたが、出席者が少なかったこともあり、継続審議とすることになった。
7. 運営委員選出について
- 継続審議となった。
8. 新入会員審査
- 7名を承認、1名を保留とした。

#### 2000年度 第3回 常任運営委員会

日 時：2000年7月21日(金) 17:00～19:00

場 所：富士短期大学高田記念館第3会議室

出席者：坂野・細江・稲毛・浮谷・内海・大久保・

大塚・荻野・岡村・小野・垣本・田中(昌)・  
林・平野・藤田・村井  
事務局(神田・岩田)

#### 報告事項

1. 2000年度(第67回)大会について  
(荻野事務局長)  
坂野会長より、7月28日にプログラム及び論文集執筆要項を発送する予定であるという連絡があった。
2. 委員会報告  
機関誌編集委員会(事務局長)  
高橋機関誌編集委員長より、新たに執筆規定の一部を変更(投稿時提出部数を原稿及びコピー4部とする)し、総会に報告する予定であるという報告を受けた。「応用心理学研究」26号は7月25日(火)に発送する予定である。
3. 事務局より(事務局長)  
日本学術会議会員選挙結果が報告された。  
中川大輪名誉会員から古い論文集3冊が学会に寄贈された。

#### 審議事項

1. 会則改訂について  
林委員より、次の3点を改正した修正案が提示された。
  - ① 第6条第2項 理事長は翌年自動的に常任理事となる。
  - ② 第8条 役員の任期を3年とする。
  - ③ 第14条に会則改正に関する条項を設ける。これに対し、常任理事の任期との関係で、理事長(会長)になった時期によって常任理事を務める期間が異なる可能性があることが指摘されたが、この条項の意図は、1年単位で理事長が交代することによる運営上の困難を避けることが目的であり、「理事の任期とは関係なく、交代後の1年間のみ常任理事となる」ことを定めることで意見の一致を見た。また、理事の任期に合わせて、委員会の委員の任期も3年とする方がよいのではないかの意見が出され、委員会の規程の変更をすることを決定した。
2. セベリア宣言の支持表明について  
支持表明をすることに対する以下のような賛成

意見が出され、承認された。

- ・応用心理学会は社会と密接に関係する学会であり、応用心理学会として社会的役割を自覚し、アピールすることは意味がある。
- ・従来から応用心理学会は社会的活動や社会への働きかけを行ってきた。会則の目的である「文化と福祉の向上発展に貢献する」という主旨にも合致する。

### 3. 運営委員、会計監査選出について

#### 1) 運営委員選出について

現在、運営委員は60名であるが、2委員より、次期運営委員辞退の申し出があった。また5名が名誉会員となられることにより7名の欠員が生ずる。また、2期会計監査であった玉井氏は常任運営委員会の申し合わせにより、次期は運営委員に推薦される。したがって、他に6名について推薦することとなり、下記の6氏に決定した。

坂野 登(神戸親和女子大学)・田中真介(京都大学)・外島 裕(日本能率協会)・松田浩平(文京女子大学)・南 隆男(慶応義塾大学)・吉田 悟(駒澤女子大学)

#### 2) 会計監査選出について

山本寛氏は留任。新たに、藤森立男氏(横浜国立大学)の推薦を決定した。

### 4. 心理学諸学会連合の提言について

事務局より6月10日に行われた連合理事会の報告が行われ、「連合の資格委員会および学会・大会のあり方委員会の提言」に対し、応用心理学会としてどのような見解を表明するかについて討議された。特に「資格」問題について、「臨床心理士の扱い」、「心理学領域以外の会員の資格取得の可能性」、「本学会が認定している資格の扱い」が問題となった。

また、「学会・大会のあり方」については、統廃合を問題とすることに対する疑問が出され、継続審議となった。

### 5. 新入会員審査

正会委員1名の入会を承認。

岡村・小野・越河・大坊・高橋・田中・馬場・福原・正田・松浦・村井・八木事務局(岩田・藤瀬)

### 報告事項

1. 2001年度(第68回)大会について(細江会長)  
2001年9月8、9日に開催する予定である。
2. 委員会報告  
研修委員会(荻野委員)  
大久保委員長にかわり、事務局長より、研修委員会において応用心理学会の研修はどうあるべきかに関する調査票を作成、これを全会員を対象に実施したいという報告がなされ、了承された。
3. 事務局より(事務局長)  
日本学術会議から懇談会開催(11月14日火曜日13:30~17:00)の連絡があった。

### 審議事項

1. 各種委員会委員長の選出  
学会史編集委員会を除く各委員会委員の任期を理事の任期にあわせ3年とすることが前回の常任運営委員会で承認された。なお、今回、前委員会発足の時期を問わず、委員会の委員の選出をここで行うこととなった。そのため、今回選出の委員の任期はすべて2000年10月より2002年9月までとなる。  
各委員長を次の通り決定した。
  - ① 「応用心理士」認定審査委員会 岡村一成
  - ② 機関誌編集委員会 高橋たまき
  - ③ 学会賞・奨励賞選考委員会 越河六郎
  - ④ シンポジウム委員会 平野 馨
  - ⑤ 国際交流委員会 長塚康弘
  - ⑥ 広報委員会 林 潔
  - ⑦ 研修委員会 大塚博保
2. 「応用心理学研究」の表紙について  
高橋委員長より、表紙の刷新については、編集委員会に一任してもらいたいという要請があり、これを承認した。
3. 心理学諸学会連合の提言について  
連合の「提言」について、常任理事に行った意見調査の結果が資料として事務局長より配布され、これに基づいて討議。応用心理士の扱い、応用心理学会の扱いなど幾つかの疑問点が出された

### 2000年度 第4回 常任理事会

日 時：2000年10月6日(土) 18:00~20:00

場 所：富士短期大学高田記念館第3会議室

出席者：細江・稲毛・浮谷・内海・大塚・荻野・

が、本学会としては、調査結果を中心に疑問点、意見をまとめ、連合に回答することになった。

#### 4. 新入会員審査

正会員として6名を承認。

### 2000年度第5回 常任理事会

日 時：2000年11月18日(土) 15:00～17:00

場 所：駒沢大学深沢キャンパス日本館

出席者：細江・浮谷・大久保・荻野・小野・垣本・高橋・長塚・馬場・平野・福原・正田・松浦・村井・藤田  
事務局(岩田)

#### 報告事項

##### 1. 2001年度(第68回)大会について(細江会長)

シンポジウム等の企画があればご協力をお願いしたい。

##### 2. 委員会報告

###### 1) 機関誌編集委員会より(高橋委員長)

27巻1号を11月中に印刷に回す予定である。

###### 2) 国際交流委員会より(長塚委員長)

国際応用心理学会に参加し、国際交流についての応用心理学会の姿勢を述べてきた。

2002年にシンガポールで開催される国際応用心理学会への積極的参加をお願いしたい(発表申し込み締め切りは2001年10月31日、シンポジウム申し込み締め切りは2001年6月30日)。

##### 3. 事務局より(荻野事務局長)

研修委員会の調査の回収状況は現在のところ約200部である。

##### 4. その他

韓国心理学会(10月11,12開催)参加報告(村井委員)

#### 審議事項

##### 1. 会則改訂に伴う委員会規程の改訂

会則改訂により、理事の任期が3年になったことにあわせ、各委員会委員の任期も2年から3年に変えること、および呼称を運営委員から理事へ変更する改訂案が一括して示され、正式に承認された。

##### 2. 委員会委員の選出

一部の委員会委員長より、所属委員の指名があ

り承認され、他は次回に送られた。

##### 3. 公開シンポジウムについて

正田委員長より、開催日は2001年1月27日(土)、テーマは「現代のライフスタイルと携帯電話」あるいは「介護と看護」としたいという提案があり、承認された。

##### 4. 新入会員審査(事務局長)

正会員2名の入会を承認。

### 2000年度第6回 常任理事会

日 時：2001年1月27日(土) 17:00～19:00

場 所：駒澤大学本部棟5-5会議室

出席者：細江・浮谷・荻野・神作・越河・大坊・林・平野・藤田・正田・松浦  
事務局(神田, 岩田)

#### 報告事項

##### 1. 2000年度(第67回)大会について

坂野前大会委員長のFAXによる報告。会長報告1, シンポジウム4, ワークショップ2, 研究発表129となる予定。

##### 2. 2001年度(第68回)大会について(細江理事長)

##### 3. 委員会報告

###### 1) シンポジウム委員会(正田委員長)

本日、公開シンポジウム「ライフスタイルの変化と携帯電話」を行った。

###### 2) 国際交流委員会(事務局長)

長塚委員長から事務局宛てに送られたFaxの内容について報告。

以下の3点について検討中である。①国際応用心理学会第25回大会の案内を全会員に送付する。②シンガポール大会に本学会としてのシンポジウムを提案する。③国際シンポジウムの日本での開催について。

福原委員から事務局宛てに送られたFAXの内容について報告。

2002年の国際応用心理学会の組織委員長と交渉し、日本からの招聘シンポジウムを2件開くことができることとなった。うち1件は応用心理学会絡みで行えるということである。詳細については今後国際交流委員会で検討する。

##### 3) 認定「応用心理士」認定審査委員会(岡村委員長)

新たに4人が認定された。

- 4) 機関誌編集委員会(事務局長)  
高橋委員長より27巻1号の初校に入ったという連絡を受けた。
- 5) 心理学諸学会連合理事会報告(事務局長)  
12月22日に第4回理事会が開催され、理事の交代、日本箱庭療法学会の入会が承認された。資格問題について話し合われ、当面基礎資格についての検討をすることとなった。このため基礎資格検討のための新委員会を充足させることになった。
- 後日、連合より各学会に対し、新委員会の委員候補の推薦の要請があった。応用心理学会からは、理事長と事務局長の判断で岡村「応用心理士」認定審査委員長を推薦した。また、各学会の既存資格についても調査があり、岡村委員長に回答の作成を依頼し、回答した。

#### 審議事項

1. 学会賞・奨励賞選考委員会規程の改訂  
越河委員長より、機関誌編集委員長と事務局長を除く委員長指名の委員を1名追加して2名とし、委員を計5名とすることが提案され、承認された。
2. 委員会委員の選出  
今回をもってすべての委員会の委員が下記のように決定した(○印は委員長)。
  - 1) 認定「応用心理士」認定審査委員会  
○岡村・浮谷・馬場・林・平野・大塚・玉井(理事)
  - 2) 機関誌編集委員会  
○高橋・稲毛・小野・越河・平野・松浦・村井・八木
  - 3) 学会史編集委員会  
○村井
  - 4) 学会賞・奨励賞選考委員会  
○越河・荻野・坂野・高橋・正田
  - 5) シンポジウム委員会  
○正田・小野・藤田
  - 6) 国際交流委員会  
○長塚・垣本・福原・正田・村井
  - 7) 広報委員会  
○林・浮谷・神作・大坊

- 8) 研修委員会  
○大塚・岡村・荻野・田中・大久保・吉田(理事)

なお、日本心理学諸学会間連合の理事は会長の交代に伴い、坂野前会長から細江会長に引き継がれた。

3. 新入会員審査  
正会員6名の入会を承認。1名を保留。

#### 2000年度 第7回 常任理事会

日 時：2001年3月10日(土) 14:00～16:00

場 所：東京国際大学 国際交流研究所

出席者：細江・稲毛・浮谷・大久保・荻野・岡村・小野・垣本・高橋・長塚・馬場・正田・村井・八木  
事務局(神田・岩田・藤瀬)

#### 報告事項

1. 2001年度(第68回)大会(細江理事長)  
第1号通信を先月発送した。
2. 委員会報告
  - 1) 機関誌編集委員会(高橋委員長)  
第27巻1号は3月21日に完成の予定である。また本号から表紙のデザインが変わる。
  - 2) 「応用心理士」認定審査委員会(岡村委員長)  
平成12年度後期の申請者5名のうち4名を2月10付けで認定。平成13年度前期申請受付開始は4月1日である。
  - 3) 国際交流委員会(長塚委員長)  
国際応用心理学会25回(シンガポール)大会開催案内を日本応用心理学会の全会員に配布したい。またこれに国際応用心理学会入会申し込み書、同大会への参加申込書、及び研究発表申し込みの方法についての説明を添付する。  
日本応用心理学会として2つのシンポジウムの開催を検討したい。(上記提案は本日の審議事項として追加し、審議することとなった。)
- 4) 研修委員会(荻野事務局長)  
「応用心理学会研修に関するアンケート」の単純集計結果を報告。① 応用心理学会会員へのアンケートの結果、274名から回答があった。② 研修の必要性については64.3%が認めている。③ 研修の対象として、応用心理士取得前

の者に対して31.4%，取得者対象に対して31.0%，実務家の抱える問題への援助的研修に対して60.2%が肯定している。④実施時期に関しては大会期間前後の1日間が43.9%と最も多かった。⑤こうした結果を受け、来年9月の富士短大での大会時に研修を設ける方向で検討を進めていく。

5) 広報委員会（浮谷委員）

日本応用心理学会のホームページと来年度大会のホームページをリンクした。日本応用心理学会のホームページへの情報掲載については、連絡をもらえば、広報委員会で検討の上掲載する。

3. 日本諸学会連合、学術会議心研連について

1) 日本心理学諸学会連合報告（事務局長）

2) 日本学術会議心理学研究連絡委員・日本心理学諸学会連合主催公開シンポジウムについて（事務局長）

3) 発達心理学会、柏木氏からの依頼について（細江理事長）

「臨床心理士」の件で文部科学省への要望書を提出することへの賛同を求められている。（この件については審議事項として扱うこととなった。）

審議事項

1. 委員会委員の選出に関する研修委員会提案について

研修委員会より、研修の具体化にともない、研修委員3名の増員の提案がなされ承認された。

引き続き、研修委員会より、浮谷常任理事、林常任理事及び外島理事の3名の推薦があり、承認された。

2. 退会措置者について

1) 住所不明者の9名について、再度確認を行いそれでも不明であれば退会措置とすることが承認された。

2) 本年度を含め過去3年度分の会費未納者21名の退会措置が承認された。

3. 新入会員審査について

新入会員11名と学生会員から正会員への変更1名、計12名を承認、1名を保留とした。

4. 国際交流委員会提案について

1) 国際応用心理学会25回大会案内配布の件

日本応用心理学会全会員への配布を機関誌の配布に合わせて行うこと、その後の処理は長塚委員長のもとで行うことを承認。

2) 国際応用心理学会第25回大会での本学会によるシンポジウム開催の件

国際交流委員会としては2件のシンポジウムを考えていたが、交流委員会委員の福原常任理事（国際応用心理学会理事）から、25回大会のメイヤー会長とのやりとりで、日本からは日本心理学会（「日本の心理学」）と、日本応用心理学会の招待シンポジウムの開催が可能となったこと、同会長は交通心理学の専門家であるのでシンポジストとして参加したい意向であるという事前の報告があった。

審議の結果、国際交流委員会が従来の方針でシンポジウムの開催を検討し5月中に常任理事会に具体的な提案をし、申し込みを行うことが承認された。

5. 日本発達心理学会柏木会長からの文部科学省への要望書提出に対する賛同依頼の件

細江理事長より、臨床心理士のスクールカウンセラー独占状態への疑義、資格にともなう大学院指定校制度は大学人事への介入にも等しいとの疑義をポイントとする要望書に、日本応用心理学会理事長にも同意し連名者となることを求められたことが報告され、本学会としてどのように対応するかを審議。その結果、本学会としても趣旨には賛成であり、賛同する、但し、表現の方法に関し、修正を求めることとなった。

会員移動

2000年度新入会員（2000.4月～2001.3月）

（氏名、①現住所、②所属）

一般会員

林 宏美

②京都大学医療技術短期大学看護学科

菅沼 澄江

②国立国際医療モニター病院附属看護学校

小谷 正登

②兵庫県立西宮南高等学校

大村 倫子

②国立療養所西群馬病院附属看護学校

佐藤 誠

②医療法人淵野会緑ヶ丘保養園

市川 こずえ

②甲南大学大学院人文科学研究科応用社会学専攻

藤井 瑞恵

②市立名寄短期大学看護学科

小林 美果

②水戸市障害者生活支援センター

金地 美知彦

月見ハイツ2号

②東北大学大学院文学研究科

川西 千弘

②神戸親和女子大学文学部人間学科

寺島 淳子

②龍谷大学大学院文学研究科教育学専攻修士1回生

大島 千佳

②松本市医師会看護学校

井上 京子

②山形県立保健医療大学

小村 晶子

②社会福祉法人びわこ学園第一びわこ園

浜路 佳世子

②新光証券株式会社

田中 さつき

②第一びわこ学園

中里 克治

②岩手県立大学社会福祉学部

内田 尚宏

②常磐大学人間科学研究科修士課程在学中

岡崎 竜太

②東京心理専門学院普通科在学中

安彦 貴弘

②常磐大学大学院人間科学研究科修士課程在席

大村 大生

②京都大学大学院教育学研究科博士後期課程在学中

富士川 俊子

②Newport 大学修士課程在学中

田上 泰弘

②(株)三洋キャリア開発

田中 良枝

②田園調布双葉高校

宮原 道子

②京都大学大学院教育学研究科教育認知心理学博士課程3年次在学

横山 敬子

②日本大学大学院経済学研究科博士課程在学中

中原 順子

②なかはら歯科医院

若松 直樹

②駒木野病院心理科

毛利 由夫

②近江八幡市桐原東小学校  
三村 華子

②社会福祉法人川和保育園  
津久井 貴子

②常磐大学大学院修士課程1年  
善方 日出夫

②富士通 (株)総合デザインセンター  
小島 久

②幕張タウンセンター株式会社  
森明 光枝

②沼津市立病院  
三辻 昭彦

②千葉県香取郡干潟町立干潟中学校  
矢島 彩子

②聖心女子大学大学院文学研究科人間科学専攻博  
士後期課程大学院生  
吉川 聡一

番地 長岡天神ハイツ14-404  
②関西大学社会学部  
大谷 亮

②中京大学大学院文学研究科心理学専攻博士後期  
課程在学中  
前田 恵利

②東京都立府中看護専門学校  
山崎 文子

②鉄道情報システム株式会社  
池田 恵利子

②日本社会福祉士会

富田 秋枝

②東京都立公衆衛生看護専門学校  
平林 佐代子

②公立学校共済組合近畿中央病院  
米 順子

②公立学校共済組合近畿中央病院  
松阪 まり子

②公立学校共済組合近畿中央病院  
加藤 かおり

②公立学校共済組合近畿中央病院  
船越 すみれ

②公立学校共済組合近畿中央病院  
荻原 和恵

②障害幼児通園施設仔鹿園  
佐々木 美加

②東北大学大学院人間科学研究科博士前期課程行  
動学専攻社会心理講座修了

学生会員

三木 瑛

②創価大学教育学部在学

2000年度退会者名簿一覧(55名 2000.4~2001.3)  
自主退会(37名)

松山 安雄, 田尾 雅夫, 江川 亮, 吉本 照子,  
久慈 洋子, 畑山恵美子, 飯島 澄子, 大芦 治,  
坂本チヒロ, 矢吹美美子, 瀬下 律子, 吉川 政夫,  
戸高 輝昭, 鈴木 千春, 柏女 靈峰, 高澤 則美,  
田中美由紀, 園田 雅代, 川村 司, 島津 明人,  
保坂栄之介, 田中 治畿, 岩下 豊彦, 大沼 夏子,  
白神 潔, 成定 康平, 川上 志穂, 鳴澤 實,

水谷 優子, 土屋 隆裕, 小口 孝司, 吉田富二雄,  
金田 富美, 頼藤 和寛, 小川 千穂, 小野田 恵,  
小杉正太郎

#### 逝 去 (3名)

謹んでご冥福をお祈りいたします。

齋藤幸一郎 2000年6月

岩田 茂樹 2000年1月

保坂栄之介 2001年3月

#### 住所不明 (15名)

畠山 彰文, 前田 美佳, 飯澤 麻, 生駒 和子,  
根本明日香, 小倉 直子, 松浦 博則, 本田真知子,  
古寺 充, 藤光 直子, 東方 愛, 小島 志穂,  
佐々木宏之, 大森 智美, 大野 智

#### 会費長期未納 (21名)

青木喜九雄, 青木 智子, 内田 達也, 大上 悦子,  
川口 毅, 河西真知子, 菊池 武剋, 島田美登里,  
寺木 秀一, 外川 勝己, 永末 貴子, 永田 雅子,  
西 晃兵, 西方 栄, 西脇 淳, 野田 紀子,  
馬場 理子, 本多 敏雄, 森 ひとみ, 柳平 彬,  
三城 絹子

#### 寄贈文献 (2000.4~2001.3)

- ・指導と評価 (日本教育評価研究会) 2000. 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 2001. 1, 2, 3
- ・学術の動向 (日本学術協力財団) 2000. 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 2001. 1, 2, 3
- ・放送研究と調査 (NHK放送文化研究所) 2000. 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11, 12, 2001. 1, 2, 3
- ・学校教育学研究論集 (東京学芸大学大学院) 2000. 3, 第3号, 2001. 3, 第4号
- ・山梨大学教育人間科学部研究報告 (山梨大学教育学部) 2000 第1巻, 2号, 第2巻, 1号
- ・IATSS Review (国際交通安全学会誌) 2000 Vol.25 No.2, 3 Vol.25 No.4 2001. Vol.26 No.1, 2
- ・人事試験研究 (日本人事試験研究センター) 2000. 6 No.175, 176, 177, 178, (1999. 6 No.171)
- ・社会研究科紀要 (慶應義塾大学大学院) 2000. 3 第51号
- ・テレコム社会科学学生賞・入賞論文集 (財・電気通信普及財団) 平成11年4月 No.8

- ・発達研究 (財・発達科学研究教育センター) 1999 Vol.14 2000. Vol.15
- ・基礎心理学研究 (日本基礎心理学会) H.12. 3. 31 第18巻, 第2号 9.30 第19巻, 第1号
- ・名古屋大学教育学部紀要 (名古屋大学教育学部) 1999 第46巻 第2号 (教育学) 2001. 第19巻 第2号
- ・安田女子大学大学院 文学研究科紀要 2001. 3 第6号
- ・若者の歌舞伎観 大久保康彦
- ・JAPANESE HEALTH PSYCHOLOGY 1999. 12 No.7
- ・東海大学紀要 (教育研究所) 1999 第7号~2000年 第8号
- ・東京学芸大学紀要「総索引」(東京学芸大学紀要出版委員会) 平成11年度 第51集
- ・東京学芸大学紀要<第1部門教育科学> (東京学芸大学紀要出版委員会) 平成13年3月 第52集
- ・学術情報センター紀要 (学術情報センター) 2000. 3 第12号
- ・全心協ニュース (全国保健・医療・福祉心理能協会) 2000. 10 No.36 2001. 5 No.37
- ・日本語教育通信 (国際交通基金) 2000.9 第38号 2001.1 第39号
- ・NII News (国立情報学研究所ニュース) 2000. 10 No.1~2001. 2 No.3
- ・学会センターニュース (学会誌刊行・日本学会事務・学会出版センター) No.310~316
- ・国立身体障害者リハビリテーションセンター「研究紀要」平成11年 第20号
- ・産業安全研究所研究報告 (労働省産業安全研究所) (2000年) (平成11年度)
- ・産業安全研究所年報 (労働省産業安全研究所) 1999 (平成11年度)
- ・日本子ども家庭総合研究所紀要 (日本子ども家庭総合研究所) (平成11年度) 第36集
- ・東北教育心理学研究 (東北教育心理学研究会) 2000. 3 第7巻
- ・交通調査・研究発表会要旨集 (財団法人 東日本鉄道文化財団) 2000. 10. 5 第7回
- ・テレビ・ラジオ番組個人視聴率調査・全国結果表 (NHK放送文化研究所) 平成12年 7月, 11月
- ・SCIENTIA (財・日本学会事務センター) Feb. No.

- 2 + 増刊号 ~ No. 3
  - ・学著協ニュース (学術著作権協会) 2000. 2. 15 No. 5
  - ・スポーツ心理学研究 (日本スポーツ心理学会) Vol.27 No.1 ~ No.2
  - ・科学警察研究所報告 (科学警察研究所) 1999 40 巻 1号 ~ 2000 41 巻 1号
  - ・学会案内 (医歯薬出版株式会社) 2001年1月版
  - ・NII Journal (国立情報学研究所) 2000. Dec No.1 2001. Mar No.2
  - ・児童教育研究 (安田女子大学児童教育学会) 2001 第10号
  - ・応用社会学研究 (東京国際大学大学院社会学研究科) 第11号
  - ・人間関係学研究 (日本人間関係学会) 2000.11 第7巻 第1号
  - ・子ども家庭福祉情報 (日本子ども家庭総合研究所) H.12. 12 Vol.16 (CD版)
  - ・Review (国際交通安全学会) 2000. Dec Vol.26 No.1, No.2
  - ・日本語教育通信 (国際交流基金) 2001. 1 第39号
  - ・TAFクォーターリー (電気通信普及財団機関誌) 2001. Jan Vol.61
  - ・研究紀要 (志學館大学文学部) 2001. 1, 第22巻, 第2号
  - ・社会学研究科紀要 (慶應義塾大学大学院) 2000 第51号 (社会学・心理学・教育学)
  - ・別冊・医学のあゆみ学会案内 (医歯薬出版株式会社) 2001. 1月版
  - ・ヘルスサイコロジスト (日本健康心理学会) 2000. 6 No.22
  - ・交通科学 (大阪交通科学研究会) 2000. Vol.30 No.2 ~ 2001. Vol.31 No.1, 2 合併号
  - ・上智大学心理学年報 (上智大学心理学科) 2000 第24巻 2001 第25巻
  - ・健康心理学研究 (日本健康心理学会) 2000. 6 Vol.13 No.1 ~ 2001. Vol.13 No.2
  - ・感性工学と情報社会 (鈴木遭・大澤光)
  - ・7つの能力で生きる力を育む (A, B, スクローム, 松原達哉, 岩瀬章良)
  - ・早稲田心理学年報 (早稲田大学文学部心理学会) 1999. Vol.31. No.2
  - ・母子保健情報 (恩賜財団母子愛育会) 2000.12 42号
  - ・関係学研究 2000年記念特集号 第27巻 第1号
  - ・筑波大学心理学研究 (筑波大学心理学系) 2001 第23号
  - ・電気通信普及財団研究調査報告書 (電気普及財団) 2000. No.15
  - ・名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要 2000 第47巻 第2号
  - ・心理学専攻紀要 (明治学院大学大学院文学研究科) 2000. 3 第5号
-